

# 事務事業チェックシート

事務事業No **378** 事業名 **新興感染症等検査体制強化事業**

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		衛生研究所費	
	大事業		衛生研究所事業	
事項		新興感染症等検査体制強化事業		

[長期総合計画]

分野別目標	2	個人を尊重し、人々がともに助け合う優しいまち
政策	1	地域福祉と健康づくりの推進
施策	4	生活衛生対策の推進
基本方針	3	検査体制の強化

[まち・ひと・しごと創生総合戦略]

基本目標		
政策		
施策		

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	平成17年度	～	
事業実施の根拠法令	食品衛生法・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律		
関連個別計画			
担当課・担当課長 (Tel)	衛生研究所	森野 吉晴 (453-0055)	
関連課	総務企画課、生活保健課等		

[3つの約束・44の約束]との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束				○

## 1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的(「誰・何」をどういう状態にする)ための事業か)	事業内容				
	高度化、多様化する病原微生物による健康危機管理事象に対応するため、最新検査法の導入に努め、調査研究により技術力を高め、検査体制の強化を図る。 また、感染症の発生動向を把握することで、新たな感染症を早期に探知し、感染の拡大、蔓延を防止することにより、市民の生命と健康を守る。	<p>食中毒、感染症、有症苦情発生時、行政依頼に基づく次の検査及び疫学解析の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○患者及び患者接触者、調理従事者等検体(糞便、血液、吐物など)、食品、水、包装容器、調理器具、施設等に対する細菌及びウイルス検査             <ul style="list-style-type: none"> <li>・細菌、ウイルス培養及び性状確認検査による病原微生物検出</li> <li>・リアルタイムPCR法、LAMP法等の遺伝子検査による病原微生物検出</li> </ul> </li> <li>○検出微生物について、DNAシークエンシング装置、パルスフィールドゲル電気泳動装置等による遺伝子解析検査</li> </ul> <p>感染症発生動向調査の病原体サーベイランスに係る検査 新興感染症等に対応するための最新検査法導入、技術検討 情報収集及び疫学調査や微生物性状等に係る調査研究</p>				
実施内容	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	市内で発生した食中毒、苦情、感染症における被害拡大防止と原因究明のための病原体検出及び遺伝子検査 麻疹疑い全例及び風疹・CRS患者サーベイランスの遺伝子検査 SFTSウイルス、MERSウイルス等の新たな感染症の患者の発生動向監視のための検査	市内で発生した食中毒、苦情、感染症における被害拡大防止と原因究明のための病原体検出及び遺伝子検査 麻疹疑い全例及び風疹・CRS患者サーベイランスの遺伝子検査 SFTSウイルス、MERSウイルス等の新たな感染症の患者の発生動向監視のための検査	市内で発生した食中毒、苦情の原因究明と被害拡大防止のための病原体検出及び遺伝子検査 市内の感染症の流行動向監視及び、感染拡大防止のための遺伝子検査(麻疹ウイルス・風疹ウイルス・腸管出血性大腸菌等) 新たな感染症の発生動向監視のための検査(デングウイルス、SFTSウイルス、MERSウイルス等)	市内で発生した食中毒、苦情の原因究明と被害拡大防止のための病原体検出及び遺伝子検査 市内の感染症の発生動向調査に係る検査(水痘ウイルス、おたふくかぜウイルス) 市内の感染症の感染拡大防止のための遺伝子検査(麻疹ウイルス・風疹ウイルス・腸管出血性大腸菌等) 新たな感染症の発生動向監視のための検査(ジカウイルス、デングウイルス、SFTSウイルス、MERSウイルス等)	市内で発生した食中毒、苦情の原因究明と被害拡大防止のための病原体検出及び遺伝子検査 市内の感染症の発生動向調査に係る検査(水痘ウイルス、おたふくかぜウイルス) 市内の感染症の感染拡大防止のための遺伝子検査(麻疹ウイルス・風疹ウイルス・腸管出血性大腸菌等) 新たな感染症の発生動向監視のための検査(ジカウイルス、MERSウイルス等)	市内で発生した食中毒、苦情の原因究明と被害拡大防止のための病原体検出及び遺伝子検査 市内の感染症の発生動向調査に係る検査(水痘ウイルス、おたふくかぜウイルス) 市内の感染症の感染拡大防止のための遺伝子検査(麻疹ウイルス・風疹ウイルス・腸管出血性大腸菌等) 新たな感染症の発生動向監視のための検査(ジカウイルス、MERSウイルス等)

## 2 事業コスト

	平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	4,340	11,341	3,532	9,705	3,925	5,404	14,276		3,925	
伸び率(%)	-	-	-18.6%		11.1%		263.7%		-72.5%	
人件費	常勤職員	13,512	16,398	16,398	13,371	13,371	15,510	13,371	13,371	
	非常勤職員	0				350	371	350	350	
小計	13,512	16,398	16,398	16,206	13,721	15,881	13,721	13,721	13,721	
国庫支出金	2,170	1,786	1,410	1,410	1,410	1,336	5,598		1,410	
県支出金		3,329		3,348			3,100			
市債										
その他										
一般財源(税等)	2,170	6,226	2,122	4,947	2,515	4,068	5,578		2,515	
所要人数	常勤職員	1.82	2.19	2.19	2.13	1.76	2.04	1.76	1.76	
	非常勤職員	0.00	0.00	0.00	0.00	0.24	0.24	0.24	0.24	
主な予算内訳	消耗品費198千円、庁用器具修繕料304千円、医薬材料費2,474千円、管理委託料712千円、機械等保守委託料2,063千円、業務用器具費8,525千円									

## 3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況				平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	単位	項目	全体目標値	全体目標達成度	年度目標値	実績値	年度別達成度			
活動指標	検査実施項目数(新興感染症等検査)				年度目標値					
					実績値	4,021	2,224	3,175		
	検査実施検体数(新興感染症等検査)				年度目標値					
					実績値	1,967	1,154	1,168		
成果指標	衛生研究所における検査可能項目数(新興感染症等検査)				年度目標値	92	93	96	101	101
					実績値	92	95	98		
	最新検査法導入数				年度目標値	1	1	1	3	1
					実績値	1	3	3		
	衛生研究所における検査可能項目数(新興感染症等検査)				年度目標値	92	93	96	101	101
					実績値	92	95	98		
最新検査法導入数				年度目標値	1	1	1	3	1	
				実績値	1	3	3			
衛生研究所における検査可能項目数(新興感染症等検査)				全体目標値	96	95.8%	100.0%	102.2%	102.1%	
				全体目標達成度	95.8%					
最新検査法導入数				全体目標値	1	100.0%	100.0%	300.0%	300.0%	
				全体目標達成度	100.0%					

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか	○	達成している(90%以上)		おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>SARSウイルス、MERSウイルス、炭疽菌、ダニ媒介性SFTSウイルス、デング熱ウイルス等市民の生命や健康に影響を与える恐れのあるバイオテロや新興再興感染症に関する情報を収集し、迅速に検査体制を整備している。また、25、26年度に市内で流行した風疹や麻疹、毎年大規模食中毒や施設における感染症を起こすノロウイルスや腸管出血性大腸菌0157等の遺伝子解析を実施することによって、原因を究明し感染の拡大を防いでいる。ところが、遺伝子解析に活用している高額な機器類は導入以降10年以上経過し最近の頻繁な利用によって不具合も多発し、緊急性を要する時に迅速な対応ができないおそれもあるが、耐用年数を越え修繕不能の状態である。今後も新たな感染症が発生し続け検査需要は益々増加していくと予想されるため、更なる体制強化が必要であるとともに、検査機器の更新が必須である。</p>
「見直し」 「改善」案	<p>HIV検査は保健所の依頼により昭和62年より実施していたが、治療薬が開発され抗体検査が民間でも検査可能になってきたため、平成26年度から、世界エイズデー等のイベント時を除き、検査を民間委託とした。これにより、MERSウイルスやデング熱ウイルスなどさらに緊急性のある感染症の検査体制を充実させることができた。今後も、実施している検査の内容を見直し、新たに必要とされる検査を実施できるよう検査の優先順位を考えていく。</p>